

# アメリカにおけるバリュールーブリックの動向

## A Trend of the VALUE Rubric in the U.S.A

吉田武大\*

Takehiro YOSHIDA

### 抄 録

本稿では、アメリカにおけるバリュールーブリックの動向を紹介することを目的としている。目的の解明にあたり、AAC&U のウェブサイトとバリュープロジェクトの関係スタッフの論考等を引用しながら、バリュールーブリック開発の背景、バリュープロジェクトとバリュールーブリックの概要を取り上げた。その結果、次の3点が明らかとなった。第1に、CLA やMAPP のような標準化されたテストでは学生の多面的な学習成果の評価が困難であることを受け、バリュールーブリックが開発された。第2に、バリュープロジェクトでは、多くの高等教育機関からの協力を得て、バリュールーブリックの開発が進められた。また、同プロジェクトは、学生の学習成果を評価する際に、eポートフォリオの活用を推奨している。第3に、バリュールーブリックは15種類作成されており、活用には個々の機関・プログラム・授業の文脈に即して表現を書き換えることが求められている。

### 1. はじめに

本稿の目的は、アメリカ合衆国（以下、アメリカと略記）におけるバリュー（Valid Assessment of Learning in Undergraduate Education, VALUE。以下、バリューと略記）ルーブリック（rubric）の動向を紹介することである。

近年、わが国の高等教育における質保証をめぐるさまざまな提言がなされている。その代表的なものとして位置づけられるのが、2008年12月に出版された中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」であろう。同答申では、グローバル化する知識基盤社会を見据え、学士レベルの資質能力を備える人材養成をねらいとした各種改善方策を打ち出しており、その一つに成績評価も位置づけられている。この点について同答申は、「個々の教員の裁量に依存しており、組織的な取り組みが弱いと指摘されてきた。従来そのままでは、大学全入時代の学生の変容に際し、学生確保という経営上の要請も相まって、なし崩し的に安易な成績評価が広がるおそれがある。」<sup>1</sup>との指摘をおこなっている。そして改革の方向として、「教員間の共通理解の下、各授業科目の到達目標や成績評価基準を明確化するとともに、GPAをはじめとする客観的な評価システムを導入し、組織的に学修の評価に当たっていくこと」<sup>2</sup>が挙げられていることから明らかなように、成績評価をめぐることは、

---

\* 関西国際大学教育学部 教育総合研究所学内研究員

到達目標や成績基準の明確化が求められているのである。このような政策的要請に応える方途の一つがルーブリックであろう。ルーブリックとは、学習者の「パフォーマンスの成功の度合いを示す尺度と、それぞれの尺度に見られるパフォーマンスの特徴を説明する記述語で構成される、評価基準の記述形式」<sup>3</sup>として定義される評価ツールのことであり、アメリカにおいて先進的に開発され、数多くの高等教育機関が導入・活用している。

そのアメリカで昨今、ルーブリックをめぐる注目すべき新たな動きが生じつつある。具体的には、個別機関もしくは個別の授業での活用にとどまらず、機関を越えて活用可能なルーブリックの開発・運用が全米カレッジ・大学協会（Association of American Colleges & Universities, 以下、AAC&U と略記）の下で進められているのである。ただ、こうした取り組みが開始されて間もないという事由もあって、ルーブリックが開発されるに至った背景やその概要といった動向が十分に明らかにされているとはいえない。わが国の高等教育において、成績評価の一方途としてのルーブリックが今後重視されていくであろうことを鑑みるならば、先進的なアメリカの動向を明らかにすることは重要であると考えられる。

そこで以下においては、AAC&U によるルーブリック、つまりバリュールーブリックが開発されるに至った背景、バリュールーブリックの開発を進めたバリュープロジェクトの概要、そしてバリュールーブリックの概要を紹介していく。その際、主として AAC&U のウェブサイトとバリュープロジェクトの関係スタッフの論考を引用しながら紹介していくこととする。

## 2. バリュールーブリック開発の背景

アメリカ高等教育においては、アクレディテーション団体による適格認定、つまりアクレディテーションという自律的な質保証システムが機能し続けてきた。

しかし近年、従来のアクレディテーションでは重視されてこなかった学生の学習成果について、測定可能な指標でもって評価する動きが連邦政府の主導のもとで進められつつある。とりわけ、2006年9月には、当時の連邦教育省長官マーガレット・スペリング（Margaret Spellings）に対して、報告書「A Test of Leadership: Charting the Future of U.S. Higher Education (A Report of the Commission Appointed by Secretary of Education Margaret Spellings)」が提出され、アメリカ高等教育界に大きな影響を与えた。本稿で取り上げるバリュールーブリックと関わって注目すべき提言としては、高等教育に透明性（transparency）とアカウントビリティの充実を求めたことが挙げられる。つまり連邦政府は、税金の投入に対して高等教育機関がどれだけのことを達成したのかを公開するよう求めたのである。

このような動きの背景には、達成度の重要な指標としての学生の学習成果に関心が高まっているにもかかわらず、両親や生徒が各高等教育機関を比較するための明瞭な根拠・指標にアクセスできないといった問題点が指摘されたことが挙げられる。

そこで、上記報告書では、高等教育機関間で学生の学習成果を比較できるような根拠・指標として、CLA (The Collegiate Learning Assessment) や MAPP (Measure of Academic Proficiency and

Progress) といった標準化されたテストの使用を推奨している。このうち、CLA は学生の批判的思考力 (critical thinking), 分析力 (analytic reasoning), 文章表現力 (written communication) を測定するテストであり、大学在学中に身につけた付加価値を測定することが主たるねらいとされている。また、MAPP は、批判的思考力 (critical thinking), 読解力 (reading), 文章作成力 (writing), そして数学 (mathematics) といった普通教育 (general education) のスキルを測定するテストである。

学生の学習成果を CLA や MAPP のような標準化されたテストによって測定するという連邦政府の政策動向に対しては、高等教育研究者などからさまざまな批判が出されてきた。さらに、AAC&U のバリュープロジェクトのスタッフからも次のような批判がなされている。つまり、テストを実施した高等教育機関の学生の学習成果が判明するのみであること、ある特定の時期の学習成果を切り取って示しただけのものであること、学生個人々の得点ではなく高等教育機関の得点を示したものであること、といった批判である<sup>4</sup>。このほか、高等教育機関の卒業生が有すべきスキルの多くを測定していないこと、仕事上の成功や市民としての成功に向けて、学生が高等教育機関において何を学ぶ必要があるのかについて、教育者やコミュニティ、ビジネスリーダー間の合意を反映したものとはなっていないこと、といった指摘もなされている。このように、バリュープロジェクトのスタッフにとっては、標準化されたテストが学生の学習成果を十全に測定しえていないものとして認識されていたのである。

標準化されたテストに対する上述のような批判のなかで、学生の多面的な能力を測定すべく、バリュールーブリックが作成されていくことになったのである。そこで次節においては、バリュープロジェクトの概要を紹介していくこととする。

### 3. バリュープロジェクトの概要

#### 3-1. 組織体制

まず、バリュールーブリックはいかなる組織体制のもとで開発されたのかを確認していく。AAC&U では、「リベラル教育とアメリカの約束」(Liberal Education and America's Promise, LEAP) という取り組みが進められており、その一部にバリュープロジェクトが位置づけられている。そしてこのバリュープロジェクトの下で、バリュールーブリックの開発がなされてきたのである。なお、バリュープロジェクトは、FIPSE (the Fund for the Improvement of Postsecondary Education) およびステート・ファーム財団 (the State Farm Companies Foundation) からの財政援助を受けて活動している。

#### 3-2. ねらい

次に、バリュープロジェクトのねらいを取り上げていこう。バリュープロジェクトでは、学生の学習をどのように評価していくかについて貢献することがねらいとされている。これは、前述のように、学生の学習の質に関するアカウンタビリティを果たし、リテンション率や卒業率を上げるこ

とを高等教育機関が求められているといった背景を受けたものである。

そこでバリュープロジェクトは、学士課程教育段階における基本学習成果（Essential Learning Outcomes）をめぐる学生の達成度を定義づけ、記述し、評価すること、換言すれば、バリュールーブリックを開発することを企図したのである。そこにおいては、学士課程教育段階における多数の基本学習成果に関して標準化されたテストは存在しないとの認識のもと、学生の学習をめぐる3種類の証拠を収集する方法の開発が目指されている。3種類の証拠とは、第1に、カリキュラムを通じて学生が達成した成果から主として得られた学習、第2に、精巧に作成された高等教育機関ごとのルーブリックと専門家の判断によって評価された学生の学習、そして第3に、異なる読み手に向けて適切な方法で整理され、提示されうるeポートフォリオを通じて蓄積された学生の学習、である。

### 3-3. 基本的な姿勢

バリュープロジェクトの基本的な姿勢については、次のように規定されている。

1. 全ての学生が質の高い教育を達成する上で、適切な評価データが計画、教育実践そして改善へと導いていくために必要とされている。このことは、教室内教育活動（curriculum）と教室外教育活動（cocurriculum）での学習成果こそが学生の学びを最もよく表していることを意味する。
2. 高等教育機関は、利用可能な標準化されたテストによって示された学習成果にとどまらず、それ以外の数多くの基本学習成果を創造し、評価することを模索している。
3. 学生が学位取得に向けて、高等教育機関内や機関間で教室内教育活動と教室外教育活動という教育上の経路を通過していくにつれて、学習は経時的に発展し、より複雑にそして精巧になるべきである。
4. 評価に関する優れた取り組みは多様な評価を要請する。
5. 精巧に構想されたeポートフォリオは、広範な学習成果にまたがった多様な評価からデータを収集するための機会を提供する。同時に、学生の学習を先導し、省察的な自己評価能力を構築していく。
6. eポートフォリオに記載された学生の成果に関する評価は、期待された目標に対する学生の達成状況をプログラムや機関に知らせることができる。また、コース内容や教育方法を改善する上で、大学教員に必要な情報を提供することもできる。

### 3-4. eポートフォリオの活用

バリュープロジェクトでは、学生の学習成果を評価する際、eポートフォリオの活用が推奨されている。それは主に3点の積極的事由に基づく。つまり第1に、eポートフォリオは学生の学習成果、とりわけ、標準化された手法では処理することができないか、処理することが適切ではない成

果に関する証拠を収集する上で理想的な手段であるということである。第2に、eポートフォリオは、学生が目標を設定し、達成することを支援しながら、多年度にわたる学位プログラム、異なる機関、そして多様な学習スタイルを越えて、学生のふりかえりと学習への取り組みを促進することができるというものである。第3に、学生が身につけた広範な知識や能力を大学院入学や就職活動の際に提示するとき、eポートフォリオは透明性と携帯用の手段の双方を提供するというのである。

これらの積極的事由に基づき、eポートフォリオとバリュールーブリックを組み合わせることで、学生の学習成果を効果的に測ることが可能になると考えられているのである。

### 3-5. 協力体制

バリュープロジェクトはさまざまな高等教育機関の協力のもとで進められている。以下、協力体制の区分に応じて紹介していくこととする。

#### 3-5-1. バリュールーダーシップキャンパス

バリュールーダーシップキャンパス (VALUE Leadership Campuses) とは、eポートフォリオおよび評価に関する作業に協力すべく、AAC&Uによって選ばれた高等教育機関のことである。具体的には、アルバーノカレッジ (Alverno College)、ボーリング・グリーン州立大学 (Bowling Green State University)、ニューヨーク市立大学ーラガーディアコミュニティカレッジ (City University of New York- LaGuardia Community College)、サン・マテオカレッジ (College of San Mateo)、カピオラニコミュニティカレッジ (Kapi'olani Community College)、ポートランド州立大学 (Portland State University)、ローズ・ハルマン工科大学 (Rose-Hulman Institute of Technology)、サンフランシスコ州立大学 (San Francisco State University)、スペルマンカレッジ (Spelman College)、聖オラフカレッジ (St. Olaf College)、ミシガン大学 (University of Michigan)、以上の12機関が選ばれている。

バリュールーダーシップキャンパスは、精巧に構築された学士課程教育段階のeポートフォリオプログラムと、学士課程教育段階のeポートフォリオに対する評価プロセスを有している。このことを前提として、以下の取り組みを行うことになっている。

- ・個々の高等教育機関で使用されているルーブリックを活用しながら学士課程教育段階のeポートフォリオのサンプルを評価し、結果を共有する。
- ・バリュールーブリックを活用しながら同じサンプルを評価し、結果を共有する。
- ・全米審査会議 (National Review Panels) での活用に向けて、学士課程教育段階のeポートフォリオのサンプルを共有する。
- ・eポートフォリオの成果を全米に普及するために協働する。

### 3-5-2. バリューパートナーキャンパス

バリューパートナーキャンパス (VALUE Partner Campuses) とは、バリュールーブリックの開発と試験的運用に貢献する高等教育機関のことである。バリューパートナーキャンパスには、ルーブリックの開発と試験を促進する一方で、高等教育機関ごとの学士課程教育段階の e ポートフォリオをはじめ、その他の学習成果をも評価し、その有効性に関するフィードバックを提供するためにバリュールーブリックを使用することが求められている。

なお、2011 年 2 月時点で、バリューパートナーキャンパスは、アメリカン大学 (American University) をはじめとする 78 校にのぼっている。

### 3-5-3. バリュールーブリック貢献者

バリュールーブリック貢献者 (VALUE Contributors) とは、バリュールーブリックの開発に従事するルーブリック開発チームに属する集団のことである。具体的な開発業務としては、基本学習成果をめぐる高等教育機関ごとのルーブリックを提出し、バリュールーブリックを開発し、それらをつなぎ合わせて試験的運用に従事することが挙げられている。

## 3-6. プロジェクトの成果

バリュールーブリックプロジェクトにおいては、主として次の成果を見出すことができる。

- (1) 基本学習成果をめぐる 15 個のルーブリックの作成。ここには、学生の学習を評価する際に、広範に共有された基準とパフォーマンスのレベルが反映されている。
- (2) e ポートフォリオがいかによりコース、プログラム、高等教育機関、個人的なふりかえり、そして評価において活用されるかを示した例。

## 4. バリュールーブリックの概要

本節では、バリュールーブリックプロジェクトのもとで開発されたバリュールーブリックの特徴やその活用を紹介していくことにする。

### 4-1. バリュールーブリックの特質

バリュールーブリックは、大学教員やその他の学術関係者、学生問題担当の専門家などの開発チームが 18 ヶ月を費やして作成された。その際、開発チームは、各高等教育機関で実際に使用されている既存のルーブリック、成果に関する組織的声明、そしてバリュールーブリックに関する各分野の専門家や大学教員からのフィードバックなどを参考にしていたが、それが共通の基準と膨大な機関のルーブリックから収集されたパフォーマンスレベルとを統合したという意味において、そして、基本学習成果に対する一般的なルーブリックに統合したという意味において、“メタ”である。“メタ”ルーブリック、つまりバリュールーブリックは、数多くの高等教育機関のほとんどのルーブリックにおいて見いだされる基本的な基準を含んでおり、各成果領域において学生の学習の質を判断する際に重要と考えられた基準の要約を表している。

このように学生の学習への期待という観点からみたとき、バリュールーブリックの作成によって、

高等教育機関間で広範に共通する基準が明確になり、学習成果のレベルを比較するための基盤が整えられたといえる。そして、このことは特に、学生の学習成果をめぐって確かな説明を模索している両親、生徒、雇用者、そして政策立案者にとって有効であるとされている。

#### 4-2. バリュールーブリックの種類とその実際

バリュールーブリックは15種類作成されており、基本学習成果としての15領域に対応している。基本学習成果の15領域とは次の通りである。

##### ○知的・実践スキル (Intellectual and Practical Skills)

- ・探求と分析力 (Inquiry and analysis)
- ・批判的思考力 (Critical thinking)
- ・創造的思考力 (Creative thinking)
- ・文章作成力 (Written communication)
- ・口頭伝達力 (Oral communication)
- ・読解力 (Reading)
- ・量的分析リテラシー (Quantitative literacy)
- ・情報リテラシー (Information literacy)
- ・チームワーク (Teamwork)
- ・問題解決力 (Problem solving)

##### ○個人的社会的責任感 (Personal and Social Responsibility)

- ・市民としての知識と責務 (Civic knowledge and engagement---local and global)
- ・異文化間の知識と能力 (Intercultural knowledge and competence)
- ・倫理的思考力 (Ethical thinking)
- ・生涯学習に対する基盤と能力 (Foundations and skills for lifelong learning)

##### ○学習の統合 (Integrative Learning)

- ・学習の統合 (Integrative Learning)

このように、これら15領域ごとにバリュールーブリックが作成されている。本稿では紙幅の都合上、情報リテラシー (Information literacy) のルーブリックを以下で取り上げる。

図1においては、まず、バリュールーブリックの概要が述べられている。ここには、バリュールーブリックが作成された経緯や目的、そして活用の方向性に関する説明—これらの説明については、いずれも本稿で取り上げ、詳述している。—がなされている。

次いで、情報リテラシーの定義が記述されている。つまり、情報リテラシーとは、「情報に対する必要性が生じたときに知ることができ、特定させ、位置づけ、評価し、そして効果的かつ確実に活用し、手近なところで問題に関する情報を共有することができる能力」と定義されている。

そして、実際の活用方法が具体的に説明されている。

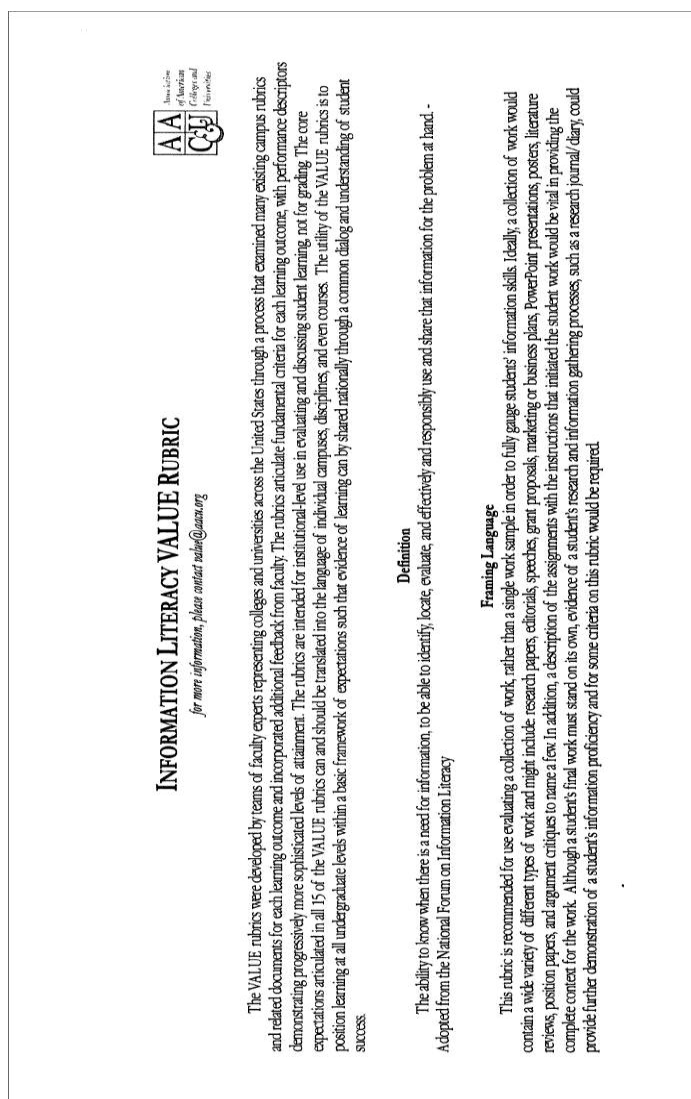


図1 情報リテラシー等に関する説明文

図2では、情報リテラシーのバリュールーブリックが4段階評価のマトリックスとして記載されている。評価の場面としては、情報の必要性の程度の決定、必要な情報へのアクセス、情報及び情報源に対する批判的な吟味、特定の目的を達成するための効果的な情報活用、倫理性・合法性に則った上での情報へのアクセスとその活用、の5点が挙げられている。



# INFORMATION LITERACY VALUE RUBRIC

for more information, please contact [valme@aacu.org](mailto:valme@aacu.org)

## Definition

The ability to know when there is a need for information, to be able to identify, locate, evaluate, and effectively and responsibly use and share that information for the problem at hand. – The National Forum on Information Literacy

Evaluators are encouraged to assign a zero to any work sample or collection of work that does not meet benchmark (cell one) level performance.

	Capstone 4	3	Milestones 2	Benchmark 1
<b>Determine the Extent of Information Needed</b>	Effectively defines the scope of the research question or thesis. Effectively determines key concepts. Types of information (sources) selected directly relate to concepts or answer research question.	Defines the scope of the research question or thesis completely. Can determine key concepts. Types of information (sources) selected relate to concepts or answer research question.	Defines the scope of the research question or thesis incompletely (parts are missing, remains too broad or too narrow, etc.). Can determine key concepts. Types of information (sources) selected partially relate to concepts or answer research question.	Has difficulty defining the scope of the research question or thesis. Has difficulty determining key concepts. Types of information (sources) selected do not relate to concepts or answer research question.
<b>Access the Needed Information</b>	Accesses information using effective, well-designed search strategies and most appropriate information sources.	Accesses information using variety of search strategies and some relevant information sources. Demonstrates ability to refine search.	Accesses information using simple search strategies, retrieves information from limited and similar sources.	Accesses information randomly; retrieves information that lacks relevance and quality.
<b>Evaluate Information and its Sources Critically</b>	Thoroughly (systematically and methodically) analyzes own and others' assumptions and carefully evaluates the relevance of contexts when presenting a position.	Identifies own and others' assumptions and several relevant contexts when presenting a position.	Questions some assumptions. Identifies several relevant contexts when presenting a position. May be more aware of others' assumptions than one's own (or vice versa).	Shows an emerging awareness of present assumptions (sometimes labels assertions as assumptions). Begins to identify some contexts when presenting a position.
<b>Use Information Effectively to Accomplish a Specific Purpose</b>	Communicates, organizes and synthesizes information from sources to fully achieve a specific purpose, with clarity and depth.	Communicates, organizes and synthesizes information from sources. Intended purpose is achieved.	Communicates and organizes information from sources. The information is not yet synthesized, so the intended purpose is not fully achieved.	Communicates information from sources. The information is fragmented and/or used inappropriately (misquoted, taken out of context, or incorrectly paraphrased, etc.), so the intended purpose is not achieved.
<b>Access and Use Information Ethically and Legally</b>	Students use correctly all of the following information use strategies (use of citations and references; choice of paraphrasing, summary, or quoting; using information in ways that are true to original context; distinguishing between common knowledge and ideas requiring attribution) and demonstrate a full understanding of the ethical and legal restrictions on the use of published, confidential, and/or proprietary information.	Students use correctly three of the following information use strategies (use of citations and references; choice of paraphrasing, summary, or quoting; using information in ways that are true to original context; distinguishing between common knowledge and ideas requiring attribution) and demonstrates a full understanding of the ethical and legal restrictions on the use of published, confidential, and/or proprietary information.	Students use correctly two of the following information use strategies (use of citations and references; choice of paraphrasing, summary, or quoting; using information in ways that are true to original context; distinguishing between common knowledge and ideas requiring attribution) and demonstrates a full understanding of the ethical and legal restrictions on the use of published, confidential, and/or proprietary information.	Students use correctly one of the following information use strategies (use of citations and references; choice of paraphrasing, summary, or quoting; using information in ways that are true to original context; distinguishing between common knowledge and ideas requiring attribution) and demonstrates a full understanding of the ethical and legal restrictions on the use of published, confidential, and/or proprietary information.

図2 情報リテラシーのバリュールーブリック

### 4-3. バリュールーブリックの活用

バリュールーブリックは高等教育機関間で共通の基準を含んだものであるため、抽象的な表現で記載されがちである。そのため、個々の機関は、バリュールーブリックを機関独自の文言、文脈そして使命に関わる表現に書き換える必要がある。また、プログラムや専攻レベルでは、ルーブリックを特定の学問領域の構成概念へと置き換える必要がある。さらに個々の大学教員レベルでは、学生に課した課題を評価する上でバリュールーブリックが効果的に活用されるよう、個々の授業課題などのねらいや意義を踏まえて書き換える必要がある。

こうして、各高等教育機関のルーブリックがバリュールーブリックに記載されている基準やパフォーマンスレベルへと対応するにつれて、高等教育機関の各レベル—個々の大学教員レベル、学問領域レベル、プログラムレベル—は、それぞれのレベルにおいてなされる評価が独特のものではなく、むしろ学習への期待とその質に関する全米レベルでの共通理解のもとに構築されているという確信をもつことができる。個々の機関による表現の書き換えは、特定のコースの特定の課題に関する学生や教員のパフォーマンスの指標の割り振りや成績の採点に貢献するのみならず、プログラムレベルの審査そして最終的には機関レベルの審査に向けて、成果やその評価結果のサンプリングと統合を可能なものにしていくのである。これらのプロセスを通じて、ルーブリックはより効果的になっていくとされている。

## 5. おわりに

これまで、AAC&Uのウェブサイトやバリュープロジェクトの関係スタッフによる論考を引用しながら、アメリカにおけるバリュールーブリックの動向を紹介してきた。以下、その動向を簡単に整理しておく。

第1に、バリュールーブリック開発の背景についてである。アメリカにおいては近年、学生の学習成果をめぐって、測定可能な指標でもって評価する動きが連邦政府の主導で進められ、CLA や MAPP といった標準化されたテストが導入されてきた。しかし、これらのテストでは学生の多面的な学習成果を十分に評価することが困難であるとの指摘のもと、バリュールーブリックを開発すべく、バリュープロジェクトが発足したのであった。

第2に、バリュープロジェクトの概要についてである。同プロジェクトでは、バリューリーダーシップキャンパス、バリューパートナーキャンパス、バリュー貢献者から協力を得て、高等教育機関で既に使用されているルーブリックや大学教員・専門家等の見解を参考にしながらバリュールーブリックの開発が進められたのである。また、同プロジェクトは、バリュールーブリックを用いて学生の学習成果を評価する際に、学生の多面的な能力の証拠としてのeポートフォリオの活用を推奨しているが、これによって学生の学習成果を効果的に測ることが可能になるとされている。

第3に、バリュールーブリックの概要についてである。バリュールーブリックは基本学習成果の領域に対応して15種類作成されていた。ただ、バリュールーブリックは異なる高等教育機関間で共通性の高い基準や特徴を含んでいる関係上、個々の機関・プログラム・授業の文脈に即して表現

を書き換えた上で活用することが求められている。

以上のようなアメリカの動向とは対照的に、わが国の高等教育においては、成績評価に関する統一した基準自体が存在せず、個々に設定・運用されているのが現状である。そういった意味で、専門分野や機関を越えて成績評価の基準を策定するという AAC&U の取り組みはわが国の高等教育が参照すべきものとして位置づけられる。ただ、この取り組みを上述のような現状にあるわが国で実施していくのは容易ではない。そこでまずは、専門分野や理念が類似している高等教育機関などの範疇で共通する基準を模索し、その上で全体的な成績評価の基準枠組みを構築するといった手続きを踏んでいくべきであろう。

最後に、本稿では、多様な高等教育機関において活用可能なバリュールーブリックの動向を紹介することに焦点を当てたため、個々の高等教育機関での運用実態を検討するまでにはいたらなかった。バリュールーブリックの全体像をより深く理解し、わが国への導入と運用の可能性を探っていくためには、バリュールーブリックがどのように書き換えられているのか、書き換えられたバリュールーブリックの活用状況はどうなっているのか、そして、e ポートフォリオを含めた評価システムがどのように運用されているかといった個々の機関における実態について精緻に検討していく必要がある。

---

#### 【註】

- 1 中央教育審議会：『学士課程教育の構築に向けて』2008年、26頁。
- 2 同上
- 3 西岡加名恵：「評価指標（ルーブリック）」、日本教育方法学会編『現代教育方法事典』、図書文化社、2004年、293頁。
- 4 Terrel Rhodes（2008）の p60,p63 において指摘されている。

#### 【引用文献・URL】

- ・ Association of American Colleges and Universities, *Peer Review*, Vol.11 No.1, 2009.
- ・ Terrel Rhodes, VALUE: Valid Assessment of Learning in Undergraduate Education, in *New Directions for Institutional Research*, 2008, pp.59-70.
- ・ U.S. Department of Education, *A Test of Leadership: Charting the Future of U.S. Higher Education (A Report of the Commission Appointed by Secretary of Education Margaret Spellings)*, 2006.
- ・ AAC&U の URL : <http://www.aacu.org/value/> [アクセス日 ; 2011年3月1日]